

公益活動報告書(市民活動実績報告書)(令和6年度分)

(宛先) 岡崎市長

令和 8年 4月 30日

団体名 共育サロン・まなびんパーク

代表者 尾竹 花保里 構成員 8人 (※令和8年4月1日時点の構成員数)

団体の目的: 団体の会則・規約に定められた団体の目的を記入してください。

本会は、子育て・人育てに関する活動を行うことにより、岡崎市内の養育者が抱えがちな問題に地域コミュニティ全体で自分ごととして取り組み、「みんなでまあるく子育て」することを目的とする。

私達の団体が掲げる目的を実現した活動を、以下の項目に従って報告します。

なお、記載内容を一般に公開することに同意します。

■ 1 団体の活動目的達成に向けて、今年度はどんな活動をしましたか。(公益活動に限る)

活動日 又は期間	場 所	公益を受けた ものは?	受益者 (会員以外) 人数※1	活 動 内 容
5、6、7、 9、10、 11、1、 2月に1回	中町にある 空き家 (個人宅)	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民	全体で 80名程度	『ベビー用品譲渡会及びママ交流会』 団体の活動へ理解を寄せてくださる支援者 より空き家を借り、ベビー用品の譲渡を通 じて、助け合いのコミュニティの形成に寄 与した。
4、6、 11、1、 2月に1回	各地域 交流センター	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民	全体で 60名程度	『はじめてのわらべうた ベビーマッサージ』 赤ちゃんとのマッサージを通して、親子間 のコミュニケーションについて学び、子育 てについての話し合いの時間も持ち、養育 者コミュニティを広げた。
2、3月に 1回	各地域 交流センター	小さな子を持つ 市民及び子育て に関心がありサ ポートをしたい 市民	全体で 30名程度	『おやこdeのんびり食育サロン』 離乳食を中心に食育とフードロスについて 学び、子育てについての話し合いの時間も 持ち、養育者コミュニティを広げた。
4月25日	北部地域交流 センター・ なごみん	なごみん フェスタに会場 された市民	体験された方で 50名程度	『うおーたーぶにぶに』 『スライムバックワークショップ』 なごみんで開催された「なごみんフェス タ」へ出展。普段サロンに参加しない方 にも広く当団体を知ってもらおうきかけ づくりとした。
10月18日	地域交流セン ター六ツ美分 館・悠紀の里	ゆきファミリー パークに会場さ れた市民	体験された方で 100名超	『はいはいレース』 『センサーボトルワークショップ』 悠紀の里で開催された「ゆきファミリ ーパーク」へ出展。普段サロンに参加しな い方にも広く当団体を知ってもらおうき かけづくりとした。

12月13日	図書館交流プラザ・りぶら	おかぎきこそだて会議に会場された市民	体験された方で50名程度	『センサリーボトルワークショップ』りぶらで開催された「おかぎきこそだて会議」へ出展。普段サロンに参加しない方にも広く当団体を知ってもらうきっかけづくりとした。
--------	--------------	--------------------	--------------	---

※1 公益を受けたものが「人」ではない、数が把握できない場合は記載がなくてもよい。〈ex. 自然環境〉

■2 前項1に基づき、1年間の団体活動で岡崎市(広く市民社会一般)に何をもたらしましたか。

イベントに来てもらって子育て一般の悩みや養育者本人の困りごとのヒアリング、解決できそうな他団体や公共施設・機関の紹介などは直接的に受益されているものと思われるが、コロナ禍以降集客は減り続けているためその総数は減っている。しかし、市や地域交流センター主体のイベント出展により、ある程度の認知は獲得できていること、また受益者がよく目にするSNSなどで広く周知していることは、実際に足を運ばなかったとしても、岡崎市にこういう団体ある、受け皿があって、タイミングが合えば受益することができるという気持ちを多くの市民に持たせることには成功していると思われるため、子育て支援への機運を高める一助をもたらしたと思っている。

■3 今年度の活動の公益性を自己評価し、付随する質問にお答えください。

①公益性の度合いを自己評価してください(数字に○をつけてください)

高い ← 5 4 (3) 2 1 → 低い

②上記の評価をした理由をお書きください

初めて参加した「なごみんフェスタ」に加えて、続けて出展している「おかぎきこそだて会議」や「ゆきファミリーパーク」はかなりの来場者を迎えることができ、団体を知ってもらう良い機会になった。大型イベントの来場者は土曜開催のためか、幼児～小学生を父親が連れてきて体験することが多いため、普段の弊団体が対象とする乳幼児よりは対象年齢を引き上げたワークショップを意識して活動することができた。

■2の回答にも書いたが、受益者の総数は年々減っているため、周知ができて、支援に繋げる部分はまだ思うような成果になっていないこと、自分たち主体のイベントが思うように開催できていないことも加え、去年よりさらに1つ下げた3と評価した。